

必ず「街になったね」と言い合いますね。いままたあちこち造成がはじまってなんとなく懐かしい、赤茶色の土が見えているというのはいへんフレンドリー(笑)。その当時から鉄道駅が入るように空けてあったというのは、これぞマスタープランという感じでびっくりしました。

田中 ところでつくばと東京秋葉原の間に行けるニュータウンは、今まではひと味違う街をそれぞれつくるといふことです。これが計画された20年前はまだパブルでもあり、どんな宅地が必要とされた時代でした。今では全く様子が変わって住宅のニーズが非常に多様化しています。大きくは都心居住と郊外居住ですが同じ都心居住でも持ち家と賃貸、戸建てとマンション、郊外居住でも戸建てか、駅前のマンションなどの選択がありますね。私たちが提唱している新・郊外居住これは一言でいうと郊外に住んでスローな生活を、というコンセプトですが、つくばエクスプレス沿線はこのスローライフと都市的な環境でのファーストライフの双方を享受できるようなまちにしたいと考えています。そういう点、住んでいらっしゃる鳥袋さんの実感はいかがですか。

鳥袋 つくばの場合は職住ともにつくばに移転してきたので、生活はつくばで完結でき、鉄道がなくてもなんとかがやってこられたのだと思います。その中で自分の時間ができてきたのです。私が学生のときの横断的プロジェクトで研究者と家族の生活時間調査をやったんです。圧倒的に少ないのが通勤時間でした。余裕のある時間をどう使うか、研究者はほんとうに研究三昧の生活ができる、食事をしに自宅に帰ってまた研究室へ戻れる、深夜、電話や会議、雑音や振動にも邪魔

では進化する鉄道によって、時代の最先端を行くつくば、柏、それに浅草という伝統的な街がなくなるわけで、それぞれの個性と資源を活用しながら、みんなが希望をもって行き来できる街をつくりたい、その仕事の先導役を鉄道が担えればと思っています。

田中 鉄道と都市開発が一体になる最大のメリットは、駅を中心に歩いて暮らせる街になっていくことなんです。それは最近よく言われるコンパクトシティの概念にも合致することで、そのためには開発区域外の無秩序な開発を抑制しないとイケない。駅と駅前広場ができ道路がネットワークすると機能的な街の骨格ができます。この中にいくつかのタネを埋め込んで個性のある街をつくる、大事なのは地域の資源です。例えば埼玉の三郷は運河の街ですね。水路があり運河が掘られていて、その水を大切にしたいというのが市のコンセプトですし、八潮は工房都市といっていますけど製造業の数でいうと埼玉県下有数の都市です。街づくり出前講座というのを市がやっています。小さな工場主や働いている人が出張して市民と交流する、うちの機械はこうしてつくっています、草加せんべいはこうやって焼くんです、などと。八潮の駅前には多目的ホールができ、そこでも出前講座が開かれます。われわれも街の文化として醸成してもらおうと協力しています。鳥袋さん、つくばではさまざま市民が活動されていますが、鉄道ができ新しく開発がすすむことを市民はどう思われているんでしょうね。

鳥袋 つくばって広くて分散していますから、人と人が会いにくいというのが悩みでした。今まで、市や県や機構で調

されず実験できるという人も多かった。またその余裕を余暇として別の自己実現に充てる、例えばお百姓さんと話をしたのがきっかけで鎌を持ちはじめ、病みつきになり、自分のつくったものを食べるということにはまった人もあれば、毎日自転車で行きたい放題走っている人もいます。総じてスローライフというのか、今で言うつくばスタイルなのですね。鉄道が出来たことによつていつそその選択肢が増えたと思うのです。つまり学生だった私たちは卒業イコールつくばを離れることで、圧倒的多数は東京方面に出るの就職でしたが、今の学生はつくばを離れなくていい。ストロー現象が心配ともいわれませんが、もつと前向きなつくばスタイルのメニューが増えていくんじゃないかと思えますね。



緑に包まれた広大なキャンパス 筑波大学

”都市と自然と知(知恵)の力

田中 ほどよく都会という言葉が気に入ってましてね。つくばスタイルのキーワードだと思っております。都会的環境もあり、自然もあり、自由度のきく空間を活用でき、一方では、知恵を働かせながら都市の生活を、”都市と自然と知(知恵)”といっています、それが非常に楽しいのがつくばの生活なのではないでしょうか。

鳥袋 つくばで知というと高学歴という知になり勝ちですが、本来の知とは人間

査をなさっていますが、どの報告書でも結論は出会いの拠点が必要となつていいます。では、どこにその拠点を置くのか。市役所だつて6町村の合併で6つの庁舎の分散ネットワーク型でやってきました。センター広場や地区公園でお祭りしても、まわりから見えにくく認知されにくい。つくば市は人口20万人というけどどこにこのよ(笑)という感じでした。今度、研究学園駅の近くに新庁舎を作ることになりました。鉄道ができて駅ができたことで、人が行きかう場所、外からきた人を迎える顔、まちの玄関としての駅前ができました。なので、意識して上手に使いたいと思えますが、悲しいかな、つくば駅は地下なのですね(笑)。



つくば駅コンコース

木村 駅はやはり交流の場にしてほしいですね。

先進の鉄道 つくばエクスプレス

田中 それでは木村さん、つくばエクスプレスのアピールポイントはなんですか。

木村 まず速いということですね。つくばと秋葉原を45分、おそらく通勤時間が半分になった方も多いでしょうね。また速いだけでなく現在考えられるすべての安全システムを採用しています。自動運転(ATOC)も最新の技術を採用しています。速度のコントロールも自動化され

が蓄積して出来るものですね。高学歴の博士だけが持っているのが知ではなくて、農業やついでいくための知、古民家で暮らしていくための知、そういう人間としての知を理解する人がいて、暮らしが深まり広がっていくと思うのです。つくばは今パンの街として売れ出そうとしているのですよ。パン屋さんが多い、しかもとてもレベルが高い。普通日本人が好まない酸っぱいライ麦系のパンも、つくばだと売れるといえます。外国人がいるだけでなく、外国で暮らした方も多く、ダイエツトや健康にもいいと評価する人がいるのでそういうパン屋が成り立ちます。それを広げていくとライフスタイルという話になる。古い知恵、新しい知恵、さらにもつと新鮮な知恵が入ってくることでパンチャーターにもなつていく、研究室と民間の知恵がいつしよになつて成長し、つくばの新しい産業になる。つくばは博士だけの街じゃないよと思つてきた時につくばスタイルということばが出てきた



つくばならではの本格的なドイツパンとドイツ料理の店

全線にわたつて技術的にカバーしています。踏切がつか所もありませんし、ホームにも安全柵をつけています。だから安心なので、何が起こるかわからない世の中です。技術的には十分なものの、要は扱う人の問題ですから厳しく訓練をしています。車輛自体は幅が広く座席もゆったりとし、クロスシートの間隔を十分開けています。それからユニバーサルデザインを採用して、体の不自由な方がひとりでも動けるように、段差をなくす、エレベーターも中で車椅子が回転できる、券売機も車椅子のままで買えるなど、あたりまえのことをきちんと整えています。乗っていただくとおわかりいただけますが、環境面では騒音と振動を少なくしています。情報化への対応は、NTTとインターネットの支援をいただいて、まだ実験の段階ですが、高速で走っている電車の中からインターネットへアクセスできるという、おそらく世界的にも例がないことをはじめにいます。また東葛の柏では、地域全体と駅を含めてインターネットを使つて、お年寄りのケアとお子さんの通学の安全の確保ができなくて地域全体でないと効果が不十分ですから、UR都市機構や周り



ホームに設けられた安全柵



走行車内からのインターネットアクセスも実験中

できないか、関係者と取り組んでいます。また駅の中のサインも工夫しています。駅だけじゃなくて地域全体でないと効果が不十分ですから、UR都市機構や周り

のは嬉しかったですね。
田中 いま、街づくりにあたつては安全安心というのが大事なキーワードです。まず災害から街を守るという安全、そして日常的な犯罪からの安心、歳をとつても病気になつても安心して暮らせる。典型的なのは流山新市街地で取り組んでもらつていふ事例です。ひとつはブレイヤー会議と称するもので、地権者、大学、病院、ショッピングセンター、居住者などがひとつになつた活動組織、そしてそれを支える公共団体、警察、大学の先生がたでのサポーター会議そのふたつがあつて、ネットワークで安心安全のソフトインフラをつくつていまして。新しく移り住む人も安心してやつてくれる、老後も不安がない、つまり持続可能な街にしていきたいのです。

木村 大変心強いお話ですね。多摩ニュータウンも千葉ニュータウンも立派な街ですけれど、ここはおそらく最後の新しい街づくりになると思うのです。安心感の持てる地域というのを地域全体でつくる、特にこれからはお年寄りが多い社会になりますからお年寄りが安心して住める、若い人とコミュニケーションできる街になつてくれば、私も鉄道としても非常に嬉しいですね。この鉄道をはじめるとき、どういう地域になつて欲しいかを随分議論しました。そして都会と田舎の両面を満喫できる街となつたのです。一方

の開発にかかわつておられる企業にも協力いただいて、駅への案内表示サインもわかりやすく統一しています。電車によって地域全体がひとつになつていけたらという考えですね。
田中 つくばに鉄道が入つてきて、市民活動は変つてきそうですか？
鳥袋 そうですね。ドア・トゥ・ドアの時間が短くなつて、今までの車での送り迎えが楽になり、自由度も時間も増えましなね。おどろくのは開業時にたくさんの人がつくばに来て下さつたことですね。その方々はどうも筑波山をめざしていらつしやる、ところがつくば駅につけばすぐ目の前に筑波山があるとつてきて(笑)そこから先はどうやって行けばいいのか大騒ぎになつて、シャトルバスを増やしたようですけれど、対応の準備が十分できていないうちに電車が来てしまつた。駅前の交番に行列が出来るのですよ。



駅構内の周辺情報パネル

木村 つくばにはいろんな研究機関があつて、お子さんの科学的興味に対応して見て、触れて、体験できるところへアクセスしやすくしてもらいたいですね。

田中 研究機関も独立行政法人になつて少し開放的になつたんでしょうか？

鳥袋 機関によっては先んじてやつていくところもありますが、土日に公開する施設は限られていましたね。職員の配置



最先端のつくばエクスプレスの車輛